

農業水利施設のアセットマネジメントの推進について

1. 提案

基幹から末端に至る農業水利施設の「アセットマネジメント」の推進にあたり、計画的な保全更新対策の実施に必要な予算を確保するとともに、緊急的な施設の改修・整備や、施設の長寿命化対策にかかる制度について、地方が取り組みやすい制度となるよう、制度設計における柔軟性の確保をお願いしたい。

あわせて、厳しい財政状況下において、これら制度の実効性を高めるため、一般公共事業債の適用範囲を拡大するなど、地方財政措置の一層の充実をお願いしたい。

2. 現状と課題

県内の農業水利施設は、その多くが琵琶湖総合開発を契機として集中的に整備され、整備後 40 年近くが経過し、多くの施設が更新時期を迎え毎年のように漏水事故が発生するなど、老朽化の問題に直面。

基幹的な水路、末端水路を含めて、平成 22 年度までに総延長約 13,000km のうち、約 3 割にあたる約 4,100km において標準的な耐用年数が到来、5 年後の平成 27 年度には、約半分に当たる約 6,900km にまで達する見込み。

3. 本県の取組状況

農業水利施設を資産としてとらえ、適切な維持管理を行うことで、施設を「より長持ち」させながら、「より経済的」な運用を目指す「アセットマネジメント」を導入し、計画的な対応を目指している。

厳しい財政状況の中、既存施設の計画的な保全更新への適確な対応は困難であることから、適切な維持管理や予防保全による更なる施設の長寿命化や、新技術の導入によるコスト縮減に取り組んでいるところ。

また、農業生産活動に支障が生じないよう、突発的な事故発生に備えたリスク管理体制の整備にも努めているところ。

(提案の概要)

農業水利施設の現状

主に「琵琶湖総合開発事業」で整備した本県の農業水利資産は約7,000億円(H20再建設費)

本県農業生産の命脈となっているが、整備後30年前後が経過し老朽化が進展
今後、標準的な耐用年数が到来する施設が急速に増加

農業生産ばかりでなく、地域の住民生活にも影響を及ぼす重大事故が発生

アセットマネジメントによる農業水利施設の効率的・経済的な保全更新対策の計画的な実施

「アセットマネジメント」の考え方にに基づき、

計画的な予防保全対策の実施と

地域ぐるみの共同活動によるこまめな補修

により、施設の長寿命化を図り、更新時期を大幅に延伸することでライフサイクルコストを約6割に縮減

「アセットマネジメント」の推進にあたり、より効率的かつ機動的な対応が必要

具体化にあたって

必要な予算の確保

- ・ アセットマネジメントの推進に必要な「農山漁村地域整備交付金」の予算の確保
地方が取り組みやすい制度となるよう、制度設計における柔軟性の確保
 - ・ 「戦略作物生産拡大関連基盤緊急整備事業」
施設規模、事業費によらず機動的に対応できる制度設計
 - ・ 「戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業」
国営付帯事業に加え、国営完了地区内の関連県営事業への対象範囲を拡大
 - ・ 「国営施設機能保全事業」
受益面積要件(3,000ha以上)及び事業費要件(10億円以上)の撤廃により機動的に対応できる制度設計
 - ・ 「農地・水保全管理支払交付金」
地方(県、市町)が責任と裁量を持って関与できる制度設計と、共同活動支援の継続
- 地方財政措置の一層の充実
- 施設の保全、更新対策にかかる事業については、予算補助事業についても一般公共事業債の対象とし、地方負担を軽減
- 農業水利施設データベース化
- 県、市町、土地改良区等による農業水利ストックにかかる情報データベース化に対する支援制度の創設